

## 知床ルシャ地区の河床路実証実験の今後の進め方について

5月31日～6月1日に安田委員、妹尾オブザーバーを交えて現地検討を行った結果、橋の機能を代替する河床路を近接して作設することに対しては、以下の問題点が指摘された。

- ①橋の周辺は水量が多く流れが速いので、上流部の川幅を広げて流れを緩和するなど、核心地域での相当の土地改変を行う必要があること
- ②橋の利用者から魚と車が両方通れるような河床路はできないのではないかと、河床路の通行に疑念が示されていること
- ③過去の洪水時に橋台が洗屈された跡があり、その上流に河床路の取付道を作設すれば、橋の維持に悪影響を及ぼす懸念があること

その一方で、過去の洪水時に橋の上流で分流した痕跡が確認された。

橋の撤去が勧告されている理由は橋による流路の狭窄化と直線化なので、増水時に分流する状況に誘導すれば、流路の狭窄化を緩和することができるし、河床路の実証実験としても現実的であり、利用者への説明で理解を得やすいのではないかと提案があった。

橋の上流右岸側の涸沢は、洪水時には度々越流し現道へ被害を与えていることから、洪水時の流路として整備し、現道に河床路を施工することにより、今後の河床路実験を進めていきたいと考えている。



## 河床路実証実験の手順(案)

### 手順①

洪水時に越流し、浸食履歴のある既設路上に実証実験用の河床路を施工。  
洪水時以外は水がないため、大規模な廻排水をせずに基礎からの石組施工が可能。



### 手順②

設置した河床路に人工的な越流を行うため橋の上流部を一時せき止める。



### 手順③

設置した河床路上に越流させ、車両通行実験の様など映像記録をとる。また、実際の越流状況から、石組に脆弱な部分がないか、流量の増大時に掃流力を拡散させる構造となっているかの検証も行う。



### 手順④

切り替えていた流れを復元する。この時、実証実験で得た河床路越流時の課題などがあれば修正メンテナンスを施す。



手順⑤（適時）

実際の増水時に河床路と橋に分派する流れの映像記録をとる。



平成 29 年度

第 1 回河川工作物アドバイザー会議  
ル シ ャ 川 河 床 路 設 計 (案)

平成 29 年 8 月 31 日～9 月 1 日

網 走 南 部 森 林 管 理 署  
株 式 会 社 森 林 環 境 リ ア ラ イ ズ

図 面 目 次

1 頁	……	オルソ写真 (治山ダム上流まで含む)
2 頁	……	オルソ写真 (道～治山ダム)
3 頁	……	ルシヤ川現況写真
4 頁	……	平面図 (写真撮影方向)
5 頁	……	溪床縦断面図
6 頁	……	工種配置図
7 頁	……	道路縦断面図
8 頁	……	石組標準図
9 頁	……	既設道横断面図 (1)
10 頁	……	既設道横断面図 (2)
11 頁	……	既設道横断面図 (3)
12 頁	……	既設道横断面図 (4)
13 頁	……	本川横断面図 (1)
14 頁	……	本川横断面図 (2)
15 頁	……	橋の上下流横断面図 (1)
16 頁	……	橋の上下流横断面図 (2)

ルシャ川オルソ写真 平成 29 年 6 月 23 日撮影

































